

# 第28回 全国街路事業 コンクール応募資料

平成27年10月

応募者名：富山県

事業の名称：都市計画道路呉羽町袋線 富山大橋架替事業

実施都市名：富山市

# 事業目的

本路線は、県都富山市と高岡市を最短距離で結ぶ大動脈であり、富山市の街の骨格となる主要幹線道路です。

神通川に架かる富山大橋とその前後は2車線道路で、一日あたりの自動車交通量は約3万台あり、日常的に「交通渋滞」が発生しており、また、富山大橋は昭和11年の供用から70年以上が経過し老朽化が著しい状況にありました。

このため、富山大橋を架け替え4車線化することにより、安全で円滑な交通の確保を図るとともに、路面電車を複線化し、公共交通の利便性の向上を図るものです。

# 事業概要

事業名称：都市計画道路呉羽町袋線 富山大橋架替事業

路線名：都市計画道路呉羽町袋線(県道富山高岡線)

事業箇所：富山市五福～安野屋地内

事業延長：道路改良区間 約1.3km

(うち橋梁部466m)

路面電車複線化区間 約1.5km

幅員：32.5m(橋梁部30.5m)

事業費：約240億円

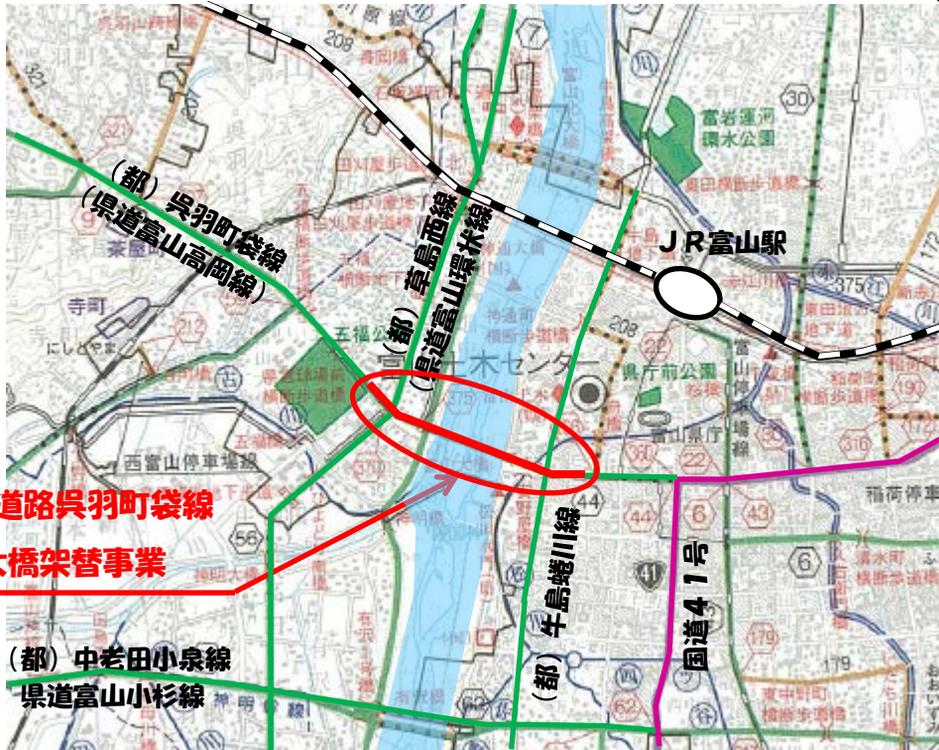
事業実施期間：平成11年度～平成26年度

(事業のポイント)

- ・五福交差点から安野屋交差点までの約1.0kmを4車線化しました。
- ・富山大橋は歩行者自転車も多く、2mの歩道幅員ではすれ違いも困難だったことから、歩道幅員を4.5mに拡幅しました。
- ・路面電車の軌道を騒音や振動を抑制する制振軌道(樹脂固定軌道)により複線化しました。
- ・富山大橋の計画検討にあたっては、平成11年に東京大学の篠原修先生を委員長として「富山大橋計画検討委員会」を組織して、橋梁デザイン検討と橋梁形式選定を同時に行い、事業の実施にあたっては篠原先生から継続的なアドバイスを受けることにより、一般的な箱桁橋でありながら、旧橋の面影を残した景観設計に成功。土木学会デザイン賞2014「奨励賞」、平成25年度「全建賞」を受賞しました。
- ・旧橋は架橋から70年以上にわたり広く県民に親しまれてきたことから、富山大橋架替記念事業検討会での検討を経て、新橋の開通を記念するとともに旧橋の記録・記憶を残すため、各種記念イベントを実施し、また、旧橋の面影を現地に残すポケットパークを整備しました。
- ・下部工工事着手時に1年生だった児童が6年生になるまでの6年間にわたり勉強会を継続的に実施し、6年生時には、高欄に設置するガラス玉を製作。ガラス玉製作をきっかけとして、後輩たちは高欄に埋め込まれたガラス玉の清掃を毎年実施しました。これらの事業展開により、「富山大橋(=ひいては土木施設)を大切にしたい気持ち」の醸成を図っています。

# 事業位置図

1/50,000



都市計画道路呉羽町袋線

富山大橋架替事業

(都) 中老田小泉線

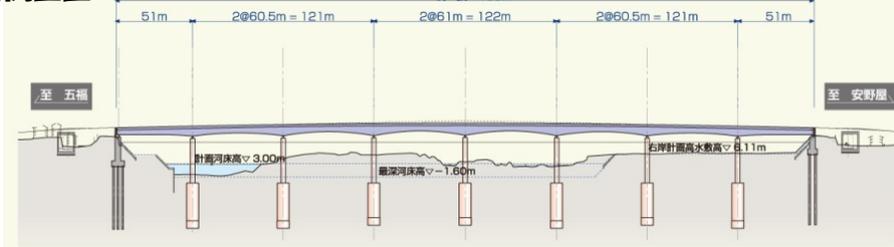
県道富山小杉線

## 全体図 (平面図・側面図・横断面図)

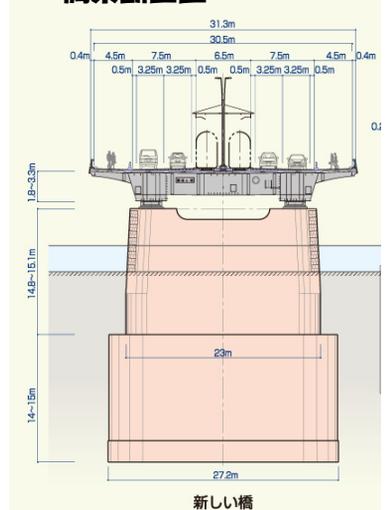
### 平面図



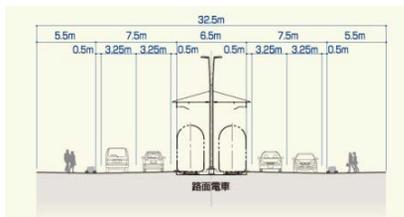
### 橋梁側面図



### 橋梁断面図



### 一般部 標準横断面図



### 富山大橋の概要

上部工形式：8径間連続鋼非合成箱桁

下部工形式：逆T式橋台、壁式橋脚

基礎形式：橋台-場所打ち杭、橋脚-ケーソン

# 富山大橋架替事業の整備効果アピール資料

## ○事業概要

事業名称：都市計画道路呉羽町袋線  
富山大橋架替事業  
路線名：都市計画道路呉羽町袋線（県道富山高岡線）  
事業箇所：富山市五福～安野屋地内  
事業延長：道路改良区間 約1.3km  
（うち橋梁部466m）  
路面電車複線化区間 約1.5km  
幅員：32.5m（橋梁部30.5m）  
事業費：約240億円  
事業実施期間：平成11年度～平成26年度



五福側橋詰上空から富山大橋、立山連峰を望む

☆車道の4車線化、路面電車の複線化により、アクセス向上や公共交通の利便性向上に寄与しました。



安野屋交差点上空から富山大橋を望む



行き交う路面電車

☆歩道幅員の拡幅（2m→4.5m）により、歩行者・自転車の安全な通行空間を確保しました。（約2千人台／12時間の歩行者・自転車利用）



☆地域に根ざした事業展開により、“富山大橋（＝ひいては土木施設）を大切にする気持ち”の醸成に寄与しました。



6年間にわたり継続的行った地元小学生への勉強会



床版お絵かき大会



地元小学生によるガラス玉製作



渡り納め



地元小学生による高欄清掃



地元小学生による歴史を未来に引き継ぐ宣言



旧富山大橋の親柱、高欄、軌道、架線柱、照明柱を復元したポケットパーク

☆立山連峰の眺望を阻害しない橋面処理、桁色、および、旧橋の魅力であった「桁が橋脚を軽やかにはねるようなリズム感」を継承する桁高変化曲線の採用により、良好な道路空間の創出に寄与しました。



立山連峰になじむよう「青鈍色」の桁



美しい2点支承の主桁と橋脚の納まり



センターポール方式の採用により立山連峰の眺望を阻害しない橋面



高欄LED照明に照らされるガラスパネルと地元小学生が製作したガラス玉

# 事業前写真

平成16年8月撮影



富山大橋は「連隊橋」とも呼ばれ、広く県民に親しまれてきた。架橋から70年以上が経過。

平成16年8月撮影



日常的に「交通渋滞」が発生



路面電車の架線と照明灯が立山の眺望を阻害

平成17年6月撮影

平成16年8月撮影



桁の腐食が著しい状況



安野屋交差点から西側を望む



富山大橋橋詰（五福側）

# 事業後写真

平成27年11月撮影



平成27年4月撮影



富山大橋を架け替え4車線化。路面電車を複線化。安全で円滑な交通を確保。

平成27年3月撮影



安野屋側上空より富山大橋を望む

平成26年11月撮影



五福交差点を上空より望む

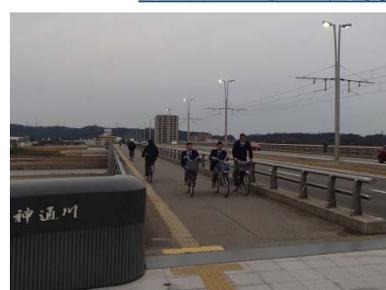
平成27年10月撮影



行き交う路面電車（五福交差点）



富山大橋橋詰（安野屋側）の様子



神通川



五福交差点から東側の様子



富山大橋橋詰（五福側）の様子



歩行者・自転車の安全な通行空間を確保

